

# アゼルバイジャン共和国の概要

(Republic of Azerbaijan)



アゼルバイジャンは、カスピ海で採掘される石油により近年著しい発展をみせています。首都は、人口200万人を超えるコーカサスで最も大きな町バクーです。旧市街の街並み、近代的なショッピングセンターなど過去と未来が交差する非常にユニークな国です。

気候は地域ごとの差が大きいです。全体としては夏は暑く、冬場の冷え込みは山岳地帯以外はさほど厳しくありません。時差は日本から5時間遅れています。

アゼルバイジャンは「火の国」という意味であり、バクーにある拝火教寺院はインド北部と現在のトルコ、シリア地方を結ぶルートの中継地として栄えました。また、2012年にはフレーム（炎）を象った3つの高層ビル群「フレームタワーズ」が完成し、夜になると1万枚のLEDパネルで美しくライトアップされます。旧市街の「城砦都市バクー、乙女の塔及びシルヴァン・シャー宮殿」は2000年に世界文化遺産に登録され、人気の観光スポットになっています。

また、アゼルバイジャンは親日国でも知られており、日本国籍者はビザ代が無料です。

特産品には「ワイン」、「ザクロジュース」、「キャビア」があります。



「火の国」アゼルバイジャンを象徴するかのようなフレームタワーズ。ラグジュアリーなホテルにもなっており、首都バクーのシンボルです。

チャイはいわゆる紅茶。アゼルバイジャンでは食事の最後にチャイを飲む習慣があります。



## 基本情報

1. 面積 8万6,600平方キロメートル (日本の約4分の1)
2. 人口 990万人 (2018年：国連人口基金)
3. 首都 バクー
4. 言語 公用語はアゼルバイジャン語 (テュルク諸語に属しトルコ語やトルクメン語に近い)
5. 県内市町の姉妹都市・友好都市 なし



石川県・志賀町